

3週間と短い時間でしたが、実習を通して今までに経験したことのない経験をするのができ、非常に貴重な時間でした。その経験から学んだことを授業と生徒との関わりについて分けて、まとめていきたいと思います。

はじめに授業についてです。実習に行く前は模擬授業の経験もほとんどなく、実際の生徒の反応さえも予測できませんでした。初めて授業を行った際には自分が作った授業の流れに沿って進めていく事に必死で、生徒が今手元に何を開いていて、視線がどこに向かっているかなどを考える余裕がありませんでした。しかし、他の先生方の授業に見学に行く生徒全員が授業に参加できるよう配慮がされており、指示が非常に的確で一つ一つの活動の区切りがわかりやすいと感じました。指示が分かりやすいことで授業の中で伝えたいこと、学ばせたいことも明確になり、生徒もきちんと力をつけることができるという環境が整えられていました。例えば、生徒がメモ欄に調べたことを書く際にもどのような書き方で何個以上書けばいいのかを詳しく説明するだけで活動がスムーズに進み、時間が短縮出来たという経験をしました。先生方は発言の一つさえもとても丁寧に考え伝えているのだと分かり、難しさを感じたとともに、より良い授業を目指し改善していく楽しさも感じました。そして、特に積極的な授業参加を促す場合には、生徒全員がこちらの話を聞くまで待つことが大切だと学びました。1人でも話を聞いていない生徒がいるとクラス全体の雰囲気は緩くなり、メリハリがつけられない状態になってしまいました。その結果自分の中で焦りが生じ、想定していた流れにならないという悪循環に陥りました。それからの授業では少しずつですが生徒全員が指示を聞ける状態を意識したことでかなり授業がしやすくなりました。まだまだ焦りが出てしまい、改善点の多い授業ですが、この実習の中で指導していただいた事柄を忘れずより良い授業を目指して改善を続けたいと思います。

次に生徒との関わりについてです。初日には全く顔も知らない生徒達と出会い、緊張と不安でいっぱいでした。声をかけるにも緊張があり、勇気が必要でした。しかし、話しているとどの生徒も笑顔でたくさん話をしてくれて、その教室に行くたびに話せる生徒が増え、楽しく充実した毎日でした。生徒達との関係性が少しずつできていくことで授業も進めやすくなり、研究授業でも生徒達が授業に積極的に参加し、協力してくれました。特に私が学級活動に入らしていただいていたクラスでは、私が前で話した後は必ず拍手をしてくれたり、授業中も私の目を見て話を聞いてくれたりと非常に温かいクラスでした。さらに、最終日には学年全体でのスタンプ発表会があり、そこで一緒に活動することでクラスの一員として参加できたように感じました。スタンプの練習期間には、授業に入っているだけでもそれぞれのクラスの雰囲気が変わっていることが分かりました。生徒自身が自分を出せるという安心感が生まれたのか、授業中の発言も増えていました。そして、クラスによってスタンプの進め方は様々でクラスのカラーがよく出ていました。それだけ生徒と教員との時間も濃くなっているのを感じました。私も担任を持ったときには生徒が他者を認め合い、自分を出せるような温かくまとまりのあるクラスを目指したいと思いました。そして、私自身もスタンプ発表会やクラスマッチの時間には授業中には話せない生徒達とたくさん話す機会があり、行事を通して生徒同士はもちろん、教員と生徒との関係性も強めることが出来るのだと行事の大切さを改めて感じました。

初めて教壇の上で私が話をした時は、緊張しているような表情で聞いていた生徒達も最後にお別れの挨拶をしたときには安心した、少し寂しそうな表情でこちらの話をしっかり聞いてくれたのが印象的でした。3週間という短い時間の中でも彼らと出会い、楽しく濃い時間を過ごせたことに感謝しています。そして、今はそれが教師になるためのモチベーションになっています。